

景況実感調査(2021年3月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 23日稼働となり前月比5日増、前年比2日増となったが売上、数量ともに日足は減となっている。実需の低迷と在庫不足が妙にバランスしており、5月以降1万円値上げの発表(日鉄)、中規模以下の建築着工はフリーズ状態と、新年度入りも予算の組みようがない。不確定要素山積みの中、コロナワクチンの接種スケジュールだけでもハッキリすれば、マインドも変わってくると思うのだが、商売が平場(ヒラバ)に戻るのは8月以降になりそうだ。
- ② メーカーからの入荷が遅く納期調整の日々。赤字で販売している先もある。材料の値上げ転嫁のみならず、取引先の価格転嫁状況も確認して与信管理していかないといけない。
- ③ メーカーからの在庫が減少しており、在庫待ちの工程作業が多く見受けられる状況になりつつある。
- ④ 1月→2月→3月と材料逼迫状況は徐々に緩和されて来たように感じる。在庫間い合わせの電話の数も、月を追うごとに少なくなってきた。建築分野の動きは依然として低調。高炉各社が原料高を理由に追加値上げを打ち出しており、製品値上げがどこまで追いつけるか難儀しているところである。
- ⑤ 3月は前月比微増となりコロナ前の9割の水準で推移している。世界的なタイト感で薄板マーケットは国内安、海外高となっており、しばらくは上昇基調で価格が推移すると思われる。需要があつての値上げではないので、転嫁が非常に難しい状況だ。
- ⑥ 前月比の増は、稼働日が増えただけで、日当たりは減少している。メーカーからの入荷は引き続き少ないので、在庫を大切に売る。選別受注を続けなければならない。
- ⑦ 薄板(酸洗鋼板)について、少しずつ需要が盛り上がりつつあり品不足が続いている。

中板

- ① 3月の加工量は総量、日当たりともに大幅に増加し、日銀短観の製造業景況感の改善を裏付ける結果となった。しかしながら、メーカー店売り材の相次ぐ大幅値上げ表明と、長引くロール調整、デリバリー遅延に直面し鋼板流通は苦慮している。今後懸念されるのは紐付きと店売りの価格格差から生じるユーザーへの値上げ転嫁の難航や、店売り供給の厳しさから逃れるための偽装紐付き契約への移管など、過去にも見られた現象には、メーカー及び一次流通ともども十分留意いただき、的確な対応をお願いしたい。
- ② 熟延も薄板三品と同様に非常にタイト。3月は前月に比べ稼働日数が多い分、販売数量、売上高ともに増。流通在庫は年度末にかけてメーカーが出荷してくるため瞬間的に増えるが、4月以降も入荷は期待できず、低レベルが続くと思われる。東京製鉄の4月契約値上げ発表に続き、日本製鉄も1万円の追加値上げを発表。今後も需要は無いが値上げせざるを得ない。海外マーケット動向も含め注意が必要。

厚板

- ① 建産機メーカーは受注が増えてきているが、足下のペースは鈍い。4月以降増産する情報があり、期待したい。土木関連ユーザーは継続物件が手堅く続いているが、小物の多い物件なので、今後数カ月はボリューム(扱い重量)が減少する。クレーン関連ユーザーも在庫調整が漸く完了し、今後受注が増えてくる見通し。素材販売は、納期が遅れていた注文がメーカーから漸く入荷し、前月比約3割増し。ただし、価格は厳しい状況。厚板関連では建機分野が好調であるが、その他の分野は低位横這い。日経新聞の4~6月産業天気図で、産業・工作機械分野が「曇り」から「薄日」に改善したこともあり、今後の生産動向に注目したい。メーカーの高炉休止等減産は解除されたが、これまでの納期遅れ解消のために一部受注を調整している模様で、今後しばらくは供給タイトな状況が続く見通し。
- ② どこまで落ちるのか、どこで下げ止まるのか予想がつかず、業績が非常に心配だ。敷鉄板の荷動きは悪く、建設業界も確実に不況に入ってきていると感じる。

—舟安开金岡

- ① 前月より営業日が多く、売上数量・売上高・粗利は表向き10%以上前月比で増加したが、日割りにすると前月比数パーセン減。特に粗利が数パーセント以上減少なのは急激な仕入れプッシュと同業間競争の結果だろう。去年7~12月の半年間の日割り数値より更に数パーセント下落して底這っている。これ以上の低落はないと思うが、市況上昇より需要喚起である。
- ② 現段階では値上げは非常に厳しい。今後新しい物件が東京近郊に流れて行くのではないかと。現場も少ないので職人さんが大変厳しい状態に陥っている。回復は来年後半か、再来年か。

I-I开金岡

- ① 3月の倉出しは増加。前年同月比は減少。全般的には年度末でもあり先月下旬からまだら模様。新規案件は少なく、継続案件も小口中心の商いである。今月も再度売り腰を強化し、慎重な販売に努めていく。
- ② 3月の販売については、土木関連は堅調も建築関係は我々の倉出しに直結する中小物件が少なく、稼働日が増えた分2月比は増加も日当たりは減少。市況も決算月でもあり数量確保に安値対応も散見された状況だが、仕入れは確実に上がっており、逆ザヤは目前にあり、4月以降は事業存続の為に再度採算の確保に注力。

異形棒鋼

- ① 年度末でメーカーの出荷が好調となり、久しぶりに売上が増加した。日々の店売り需要は低調で、小口・当用買いが続いている。販価改定で少しでも採算確保すべく努力している。
- ② 浦安置き場渡し相場は少し上がったがところで横這い。動きは当用買いで細かく、低位横這い。スクラップが上がり在庫を積んだが動きは変わらず。メーカー在庫もあり在庫削減へ。

平鋼

- ① 3月も荷動きは低迷したまま。稼働日増で微増となったが雰囲気は全く変わっていない。再度価格転嫁に動きたいところだが、荷動きが停滞している中での値上げには抵抗も強い。需要回復の兆しが見えない中ではあるが、今後も在庫の適正化と価格転嫁に努めていきたい。
- ② 値上げを実行するものの、メーカー値上げ分の転嫁とはいかず、利益は徐々に厳しさを増す一方。需要も伸び悩み、日々の出荷量は低水準で止まっている。4月に入り、土木向けの引合いが少し増えている。店売り、建築は変わらず低調のまま。

車量形鋼

- ① 材料(母材)は値上がり傾向にあり、先々不透明。
- ② 3月の店売りは低調だったが、営業日の多さに助けられた形だった。サイズによっては一段と入荷が悪くなってきているので、厳しい状況はまだ続きそうだ。
- ③ 在庫積み増しにより稼働増の影響。材料不足と価格により先行き不透明。

鋼管

- ① メーカー供給がタイトな状況継続も、荷動きは前期比日割りで減少。4月以降は更に厳しい。
- ② 前年比増となったが、昨年にコロナの影響が出始めた時期であり、一昨年と横這いの状況。先高による大きな仮需は見られないが、半年先の引合いなどは活発になっている。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車や建機は急回復しており、工作機械も輸出向けは好調。産業機械は中小ユーザーが低調で全体ではまだ模様。紐付きは高水準だが、店売りは今一つ盛り上がりを欠く。市中在庫は歯抜けが増えており、タイトな状況。年初からのメーカーの値上げを受け、4月以降の1万円値上げが本格化して行く。

磨棒鋼

- ① 長らく低迷していた小口の店売りについても、ようやく底を脱した感が出てきた。機械、設備関連の小口需要が増えてきている様子。自動車向け紐付き品は折からの半導体不足による生産調整が今後少しずつ需要に影響して来ると思われる。現在は、値上げ依頼の最中であるが、流通顧客は概ね満額で値上げ要請に応じてくれている。

その他

<鉄線・ナマシ>

- ① 3月1日から+5~10の値上げとなり、今月(3月)に入ってからはやや減少中。4月も同じように悪化しそうだ。

<鉄スクラップ>

- ① スクラップ相場は比較的落ち着いた1か月だった。ただ、依然としてスクラップの市中発生量は少なく、スクラップ不足の状況に変わりはない。需給バランスが少しでも崩れると相場もまたすぐに混乱しそうだ。

<金属表面処理>

- ① 3月は紐付き・物件物ともに計画通り。スポットはまとまった物量もあり、計画より10%増で推移した。中旬以降、先納期の引合いが増え始めているが、現時点での稼働は定時内操業で落ち着いている。4月は物件物を中心として引き合い件数が増加していることから期待する。